

令和5年度 高知県高次脳機能障害支援委員会 議事概要

日 時：令和6年2月7日（水曜日） 19：00 ～ 20：30

開催方法：オンライン開催

出席者：19名

◆委員 7名

佐藤 誠 （高知県作業療法士会）

大畑 剛 （公益社団法人高知県理学療法士会）

小松 郁子（NPO 法人脳損傷友の会高知「青い空」）

水田 晋誠（高知県臨床心理士会）

田中 きよむ（高知県立大学社会福祉学部）

西岡 由江（日本精神科看護協会高知県支部）

宮本 寛（高知県リハビリテーション研究会）…会長

◆事務局等 12名

1. 令和5年度高次脳機能障害支援拠点センターの活動実績について

資料1 事務局説明

○質疑

委員：（6）初回相談について

家族はリハビリテーション（以下「リハビリ」という。）をしてほしいと思っているが、本人が望まない場合、本人がリハビリの効果を感じていないことによるのか、リハビリの意義を本人が理解できないからなのか。

事務局：あるケースは、本人が病識がないことにより、家族がそのことで困って相談にきたケース。本人が身体面の不具合を感じてリハビリにつながった。

事務局：地域でのリハビリについて、利用者としリハビリ担当の職員が共有する目標をもてないことがある。病院の外来で対応することに限界がある。支援拠点は、B型作業所の青い空とつながりがあるので個別に対応できることがあるが、病院だけでリハビリの意義を理解してもらうのに限界があり、地域でのリハビリの課題である。

委員：当事者・家族向けの研修が必要ではないか。

事務局：初回は個別対応が必要であるが、徐々に障害のことが理解できると集団での集まりも必要と感じる。地域の集いでニーズには早めに対応している。

委員：地域研修会の周知方法は。

事務局：障害福祉サービス事業所、市町村、作業療法士会、精神科病院等に周知。

委員：家族会のメンバー構成は。

事務局：青い空の家族会は、年2～3名新規の人がいる。平均15名前後。

女子会は、オンライン開催。15名前後。30名に開催案内を送っている。

委員：幡多圏域の病院等の状況は。

事務局：ある病院での家族会の話が3年ほど前にあったが、開催ができなくなり、断ち消えてしまった。当事者達を中心になって体制を検討することができなかったのが課題であったと考える。

委員：安芸圏域では田野病院を中心に相談が増えてきているが、次は幡多圏域での診断から治療まで地域でできる体制を整えることが大事だと考える。

事務局：今年度の成果の田野病院との連携について、委員の皆さまからご意見が欲しい。

委員：田野病院に入っただき、ネットワークを作って地域の事例を共有してほしい。

会長：幡多圏域で核となる医療機関はあるのか。

事務局：そこまで把握が出来ていないというのが現状である。

事務局：幡多圏域の病院がかかりつけで、そこで診断等で連携した事例がある。

委員：男性の家族会のニーズはないか。

事務局：女子会の中で、配偶者の男性の参加者がいる。数は少ないが、当事者の母から通じて父親等のニーズも拾っていききたい。

委員：障害の特性上、どうしても女性の支援者が多い。これからは男性も集まれる場を考える必要がある。

事務局：高次脳機能障害の評価診断できる医療機関の情報はあるか。

委員：病院によって認知機能評価の取り方が違うと思う。県内統一で評価できる仕組みがあるとよい。

2. 令和4年度高次脳機能障害支援委員会での意見について

資料2 事務局説明

○質疑

委員：精神科での入院の長期化を防ぐため、地域移行の県としての取組は。

事務局：法律の改正により、医療保護入院については6ヶ月ごとに更新することに変更になる。また、医療保護入院者に対する入院者訪問支援事業が開始となる。さらに、長期に入院している方への退院に向けた院内の説明会も開催する予定である。

委員：これは高次脳機能障害に特化したものか。

事務局：対象の疾患を絞ってということではない。

事務局：長期入院者が多い現状として、高次脳機能障害の方のための中間的機能を担う場所がない。

グループホームや、地域生活支援拠点の設置など、県や市と協働で検討していかなければいけないと考えている。

委員：医療と介護の連携が難しいので、うまく連携ができるよう県が取り組んでほしい。職種同士で連携ができるよう自分自身でも取り組んでいきたい。

委員：高次脳機能障害者のリハケアサービスを提供する事業所がないということだが、そのあたりの県としての考えは。

事務局：介護保険サービス事業所の職員にまずは疾患のことを知っていただくため研修を実施していく。

委員：適切なリハケアサービスがないという課題があるので、ぜひ県で障害と高齢で部署を超えて連携してほしい。

事務局：そのような現状は担当部署と共有する。

委員：医療保護入院者の6割が1年以上入院している現状に驚いた。理由は他の精神疾患と同じなのか知りたい。高知ハビリテーリングセンターの中にある、自立訓練の機能訓練の周知が不十分であると感じた。中間的施設の役割を担うので、高知ハビリテーリングセンターと支援拠点が今後連携できるとよい。今後は連携しながら、復職支援もしていきたい。

会長：18歳～39歳の高次脳機能障害者を支える仕組みを都道府県に整えることが出発点であった。高齢になると、身体機能の衰えもあるので高次脳機能障害のことだけで考えることはできない。この会議の中では、介護保険の対象になる人までの高次脳機能障害への支援について考える場としていきたい。その中でハビリテーリングセンターとも連携できると大変よい。ただ、高齢の方とも連携することは大事である。